

The 備前-土と炎から生まれる造形美-

Bizen: From Earth and Fire, Exquisite Forms

2019年2月22日 [金] - 5月6日 [月・休]

桃山時代から現代へ—土と炎の美の系譜。



図版No.1 (I章)
《三角花入》桃山時代 個人蔵



図版No.2 (II章)
かねしげとうよう
金重陶陽《耳付水指》1958年 東京国立近代美術館蔵

備前焼は、釉薬を施さず土と炎の造形から生まれるシンプルで原始的なやきものとして、古くから日本人に愛されてきました。「窯変（ようへん）」「緋襷（ひだすき）」「牡丹餅（ぼたもち）」「胡麻（ごま）」「棧切（さんぎり）」など、薪窯による焼成で生まれた景色は他のやきものにはないみどころです。

本展では桃山時代に茶人・数寄者によって見立てられた古備前の名品から、その古備前に魅せられ作陶に取り組んできた近代の作家、さらに先達から受け継いだ技術を生かして現代の備前を確立しようとする若手の作品まで、桃山時代から現代へと流れる土と炎の美の系譜を紹介。シンプルでありながら、多彩な表現を生む備前の魅力を探ります。

本展のポイント

- ◆ 茶人・数寄者たちに愛された古備前の名品が並びます。
- ◆ 桃山の備前復興に尽力した金重陶陽ら近代の陶芸家たちの挑戦に注目します。
- ◆ 重要無形文化財保持者（人間国宝）から若手陶芸家まで、現在活躍中の9名の作家により備前焼の「いま」を紹介します。
- ◆ 古備前から現代作家の作品まで、約140点を展示します。

I 章：源流としての備前焼—茶の湯のうつわを中心に— (古備前：約40点)

備前市伊部地域を中心に作られたやきものが「備前焼」と呼ばれています。中世以降、壺・甕・播鉢などの生活雑器を生産する体制が確立された備前焼は、桃山時代に入ると、優れた茶の湯のうつわを焼造するようになりました。それらは、釉薬を一切使わない中で、土と炎と造形から生まれる独自の美観を生み出し、茶人たちに愛されてきました。I 章では、室町時代後期～江戸時代初期に焼造された水指や花入、茶入、手鉢など、茶の湯のうつわの名品をはじめ、壺や陶板などの生活雑器や窯道具などもあわせて紹介し、古備前の魅力をお伝えします。



図版No.3
《矢筈口耳付水指》桃山時代 個人蔵



図版No.4
《耳付花入 銘 太郎庵》桃山時代 個人蔵



図版No.5
《徳利 銘 トシワスレ》桃山時代 個人蔵

II 章：近代の陶芸家と備前焼—写しと創作— (金重陶陽、藤原啓、山本陶秀、金重素山、藤原雄、伊勢崎満：約45点)

桃山時代に焼造された茶の湯のうつわに魅力を感じ、その美観を自身の作品に取り込もうとした陶芸家、金重陶陽の登場により、備前焼の人気は一気に高まりました。II 章では、備前焼で初めて重要無形文化財保持者（人間国宝）となった金重陶陽の優品とともに、金重陶陽と同様に古備前に魅せられ、その継承と研究に心血を注いだ藤原啓、山本陶秀、藤原雄ら人間国宝をはじめとする近代作家の作品を紹介します。



図版No.6
かねしげとうよう
金重陶陽《三角播座花入》1953-54年頃
岡山県立美術館蔵



図版No.7
かねしげそざん
金重素山《緋襷重餅水指》1993年頃 個人蔵



図版No.8
いせざきみつる
伊勢崎満《窯変耳付花入》1990年頃 個人蔵

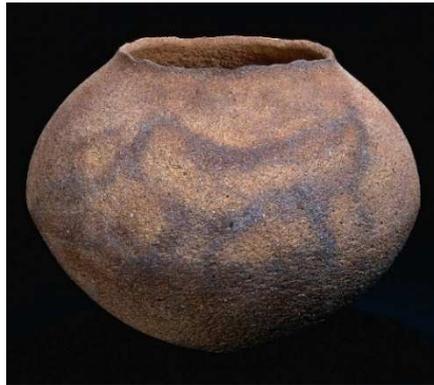
Ⅲ章：現代の備前焼—表現と可能性—

(伊勢崎淳、森陶岳、島村光、金重晃介、隠崎隆一、金重有邦、伊勢崎創、矢部俊一、伊勢崎晃一郎：約55点)

今日の備前では、近代の陶芸家が確立した備前焼を乗り越え、新たな備前焼を生み出そうと果敢な試みを行っています。「備前焼とは何か」を常に意識しつつ、独自の素材、ユニークな造形により、新しい表現とその可能性を様々な角度から追求し、古典にはなかった個性的な作品を生み出す現代の陶芸家による多彩な作品を紹介します。



図版No.9
いせさきじゆん
伊勢崎淳《風雪》2015年 個人蔵



No.10
もりとうがく
森陶岳《砂壺》1970年 東京国立近代美術館蔵



図版No.11
しまむらひかる
島村光《ネズミノカップル》1983年 個人蔵



図版No.12
かくれざきりゆういち
隠崎隆一《混淆花器》2016年 個人蔵



図版No.13
かねしげこうすけ
金重晃介《聖衣》1994年 岡山県立美術館蔵



図版No.14
いせさきこういちろう
伊勢崎晃一郎《打文花器》2018年 個人蔵

■東京国立近代美術館工芸館について

工芸館は、日本で最初の国立美術館である東京国立近代美術館の分館として、建築家・谷口吉郎が改修を手がけ、昭和52(1977)年に開館しました。総数約3,800点(平成30年3月31日現在)を収蔵し、近現代の工芸およびデザイン作品を全般にわたって幅広く収集をおこなっています。工芸館の赤レンガの建物は、明治43(1910)年に建てられた旧近衛師団司令部庁舎を保存活用したもので、現在、重要文化財に指定されています。2020年、石川県金沢市へ移転予定。



開催概要

展覧会名(日)	The 備前-土と炎から生まれる造形美-
展覧会名(英)	Bizen: From Earth and Fire, Exquisite Forms
会期	2019年2月22日 [金] - 5月6日 [月・休]
会場	東京国立近代美術館工芸館 (千代田区北の丸公園・竹橋) 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
主催	東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション
制作協力	NHKプラネット中部
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日 (3月25日、4月1日、4月29日、5月6日は開館)
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分
観覧料	一般900円 (600円) 大学生500円 (350円) 高校生300円 (200円) 中学生以下および、障害者手帳をお持ちの方とその付添者 (1名) は無料。 * () 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、障害者手帳をご提示ください。
イベント	●デモンストレーション 2019年4月14日 (日) 隠崎隆一氏 (出品作家) ●アーティストトーク 2019年3月31日 (日) 金重晃介氏 (出品作家) 2019年4月28日 (日) 伊勢崎晃一朗氏 (出品作家) ●ギャラリートーク 2019年3月3日 (日) 唐澤昌宏 (東京国立近代美術館工芸課長) 2019年3月17日 (日) 唐澤昌宏 (東京国立近代美術館工芸課長) ●会期中 水・土曜日 タッチ&トーク 午後2時～午後3時 工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム。作品を実際にさわりながら鑑賞できるさわってみようコーナーと会場トークの2部構成で、さまざまな角度から展覧会の見どころを紹介します。申込不要・参加無料 (要当日観覧券)。

報道関係の方の
お問合せ先

東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/唐澤、花井 広報担当/島田

Tel: 03-3211-7781 (工芸課直通) E-mail: koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

http://www.momat.go.jp

広報用図版 請求票

FAX: 03-3211-7783(工芸課) 広報担当 行

発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	《三角花入》桃山時代 個人蔵
	2	金重陶陽《耳付水指》1958年 東京国立近代美術館蔵
	3	《矢筈口耳付水指》桃山時代 個人蔵
	4	《耳付花入 銘 太郎庵》桃山時代 個人蔵
	5	《徳利 銘 トシワスレ》桃山時代 個人蔵
	6	金重陶陽《三角播座花入》1953-54年頃 岡山県立美術館蔵
	7	金重素山《緋襷重餅水指》1993年頃 個人蔵
	8	伊勢崎満《窯変耳付花入》1990年頃 個人蔵
	9	伊勢崎淳《風雪》2015年 個人蔵
	10	森陶岳《砂壺》1970年 東京国立近代美術館蔵
	11	島村光《ネズミノカップル》1983年 個人蔵
	12	隠崎隆一《混淆花器》2016年 個人蔵
	13	金重晃介《聖衣》1994年 岡山県立美術館蔵
	14	伊勢崎晃一郎《打文花器》2018年 個人蔵

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXまたはメールでお送りください。
- ・図版はJPEGデータをご用意しています。使用する場合は、指定されたクレジットを併記してください。
- ・図版は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行わないでください。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

御芳名

貴社名

出版物・放送番組・webサイト名など(発行日等):

URL <http://www.>

TEL

FAX

E-MAIL

* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。

プレゼント用招待券を 希望する(5 組 10 枚) / 希望しない

招待券送付先: 〒

報道関係のお問合せ先

東京国立近代美術館工芸館 広報担当/島田

TEL: 03-3211-7781(工芸課直通) FAX: 03-3211-7783

E-mail: koge-i-pr@momat.go.jp 公式HP: <http://www.momat.go.jp>